

施策番号	2603		
施策名	市民への応急手当の普及啓発と救急体制の充実による救命効果の向上		
概要	事故や災害等から市民を守り、救命効果を向上させるため、応急手当のできるひとづくりを推進するとともに、高度な救急活動体制を構築する。		
担当局・部室	消防局・安全救急部	共管局・部室	
上位政策	26 消防・防災		
施策に関係する 主な分野別計画等			

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		年度	23年度	24年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	応急手当の知識や技術を身につけた市民の数 (人)	-	a	34,764	33,784	34,000	99.4%	b	1.00
2	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
			a	客観指標総合評価				b	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。



- そう思う
- どちらかと言おうとそう思う
- どちらとも言えない
- どちらかと言おうとそう思わない
- そう思わない

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている						23 年度	B
	重み付け	☒ 客観指標	b	☐ 市民の実感	c			
(重み付けの理由) 消防・防災施策については、市民にとって平常時には実感を得にくいものであることから、客観指標を重視する。							年度	-
(原因分析) ・客観指標評価については、市民や事業所に対し、救命講習受講を勧奨し、前年同様、3万人を上回る受講者数となったが、目標の受講者数をわずかに下回ったため、b評価となった。 ・市民生活実感評価については、実際に応急手当を行わなければならない場面において、適切な行動をとる自信のある者ばかりではないことから、c評価となったと考える。							年度	-

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		24年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		23年度 決算額	24年度 予算額		
1	救急高度化事業	553, 311	562, 224	良い	消防局
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・小学生を対象とした救命入門コースの新たな取組と合わせて救命講習修了者の増加に努めるとともに、救命講習の再受講を勧奨し、応急手当のスキルアップを図る。
・救急事案が発生した際の応急手当や119番通報などを行う「安心救急ステーション」認定事業所の増加を図る。
・救急隊による救命効果の向上を図るとともに、救急隊到着時間を短縮して市民の命を救う救急出張所の設置について検討を行う。

施策名	2603	市民への応急手当の普及啓発と救急体制の充実による救命効果の向上				
指標名	応急手当の知識や技術を身につけた市民の数（人）					
担当課	安全救急部救急課		連絡先	2 1 2 - 6 7 0 2		
1 指標の説明						
京都市消防局が実施する救命講習の受講者数						
2 指標の意味						
救命効果の向上に資する市民の応急手当への対応力を示す指標						
3 算出方法・出典等						
算出方法：上級救命講習受講者数＋普通救命講習受講者数 出典：事業担当課調べ						
4 数値						
	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	22年度	23年度		数値	根拠	達成度
数値	34,764	33,784	980人減	34,000	単年度に目標とする受講者数	99.4%
	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値						
5 評価基準						
最新数値の目標値に対する達成度が a：100%以上 b：90%以上100%未満 c：80%以上90%未満 d：70%以上80%未満 e：70%未満						
6 基準説明						
・目標値を達成すればa評価 ・以下10%刻みでb～e評価						
7 評価結果						
		23	24			
-	a	b				